

SGH 通信

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221 / FAX 088-844-4823

H29. 12.26 No.13

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

グローバル探究Ⅱ（2年）の取組

「タイリサーチ」11月7日（火）～10日（金）

2年生5名が、「タイ人のセレブを呼び込んで高知県の地域創生を図る」を探究テーマに、四国内 29 の企業・団体等とともに「タイ商談会等インバウンドプロモーション事業」に参加し、実際の誘客活動や JTB バンコク支店を訪問して、タイ人観光客の特徴を学びました。また、空き時間を利用してマーケット調査を行うなど精力的に活動し、4日間と短いながらももの充実したリサーチ活動を行いました。

【参加企業一覧】

高知県：ホテル高砂、なぶら土佐佐賀、新ロイヤルホテル四万十、四万十市観光協会、土佐和紙工芸村くらうど、幡多広域観光協議会、四国銀行地域振興部、高知県観光振興部国際観光課

徳島県：ホテルサンシャイン徳島、バンコク阿波所縁の会、太龍寺ロープウェイ、Novil、大塚国際美術館、ホテル白い燈台、阿波銀行営業推進部

香川県：寒霞渓ロープウェイ、琴平グランドホテル、喜代美山荘花樹海、琴平バス、四国フェリー、平井料理システム、香川県観光協会、百十四銀行地域創生部

愛媛県：愛媛県観光物産協会、かすがいジャパン、ホテル椿館、伊予銀行地域創生部

四 国：四国旅客鉄道株式会社、四国ツーリズム創造機構



タイの王宮



ワットポー寺院



インバウンド商談会

(1) 実施内容

- 11月7日（火）移動日
 - 11:40 羽田離陸
 - 15:45（日本時間 17:45）バンコク空港着（約6時間のフライト）
 - 19:30 ホテル着（渋滞のため遅延）
 - 20:30 夕食
 - 23:00 消灯

【生徒の感想】

空港からホテルまで1時間の予定が、大渋滞のため3時間かかった。バスのガイドさんからは、バンコクの人口 800 万人のうち 600 万人が自動車を保有しているため、「渋滞の国」と呼ばれているとのことだった。夕食では、地元の人気レストランを訪れたが、初めて本場のアジア料理だったため、匂いが強烈でタイのことが嫌いになりそうだった。とても辛いソースがあったが、「ノースパイシー」と言えば、日本人向けに辛くない料理にしてくれることが分かった。味はおいしかった。日本は外国の料理も日本風にアレンジするけれど、タイ人は日本食をタイ風にアレンジするのだろうか、日本の味のままでしょうか、調査してみたい。



○11月8日(水)

- 10:00 ターミナル21にて市場調査・昼食
- 12:30 グランデセンターポイントホテル集合
- 13:15 JNTOバンコク事務局長 伊藤 和宏 氏 講演
- 14:20 四国ツーリズム創造機構GL 土井 裕二 氏 講演
- 15:15 インバウンド商談会(10分×14回)
- 17:50 商談会終了
- 19:30 スーパーフジ 市場調査
- 20:30 ホテル着 振り返り(90分)



【生徒の感想】

インバウンド商談会では、県内7社、県外1社の誘客活動に参加した。高知県は県西部の方々が参加しており、四万十川、仁淀川、海など自然に関するものを多く紹介していた。近年、タイではサイクリングが流行していることやJNTOの伊藤さんにインタビューして超富裕層がどのような旅行をするのかなど、多くの情報を得ることができた。また、足摺岬がミシュラングリーンガイドに登録されていたり、日本で初めて「海の公園」というのに指定されていたり、商談会に参加しないと分からなかった情報をたくさん得ることができた。夜、ホテルでの振り返りでは、皆すごい話することがあってあっという間に90分が経っていた。これからの探究活動を頑張りたいです。

○11月9日(木)

- 9:00 チェックアウト
- 9:30 JTBバンコク支店訪問(聞き取り調査・プレゼンテーション)
- 12:00 昼食
- 13:00 ワット・ポー寺院、王宮訪問
- 15:30 MBKセンターにて市場調査(2時間)
- 22:05 バンコク空港発(復路は5時間15分のフライト)
- 7:25 羽田発(11月10日)
- 9:10 高知空港解散



JTBバンコク支店でプレゼン



市民の足トゥクトゥク

【生徒の感想】

JTBでは、近年の訪日タイ人(約90万人)の増加要因は、主にビザの緩和、GDPの成長、円安などがあげられていた。旅行支出平均額は約15万円で、そのうち6万円(40%)が買い物で消費されているとのことだった。しかし、ここ最近では、買い物中心の「モノ消費」から、体験中心の「コト消費」へと変化していることも教えていただいた。高知県には自然を中心とした体験型のアクティビティが多い。高知県も売り込み方次第で関心をもってもらえると思った。JTBの後は、市民の足といわれるトゥクトゥクに乗ってワットポー寺院や王宮を訪ね、タイらしい風景に出会えた。国王の葬儀関係で人がたくさん訪れていた。その後、市民が買い物で集まる「MBKセンター」へ行き、タイ人の嗜好などを調査したが、Tシャツ、バッグなど非常に安く、物価の違いに驚いた。実質、2日間の探究活動だったが、ものすごい情報を集めることができた。タイ人の特徴を取り入れた高知県の旅行プランをつくっていきたい。

(2) タイリサーチを終えて

生徒たちは、商談会やJTBバンコク支店訪問で学んだことを「旅のしおり」のメモ欄にびっしりと書き込んでおり、ホテルに帰って行なった振り返りの時間では90分でも足りないほど熱く語り合っていました。この後は、タイ人セブを呼び込んで、どうやって高知県の地域活性化を図るのか、具体的な対策案の提案に向けて探究していくことになります。

○「高知家地方創生アイデアコンテスト2017」アイデア賞 受賞(平成29年11月12日(日))

タイから帰ってきて、2日後、高知県が主催する「高知家地方創生アイデアコンテスト」の最終審査会が高知県庁本庁舎正庁ホールで行われました。140をこえるチーム(高校・大学)の中から10チームが最終審査会に進み、チーム名トムヤムクン、発表タイトル「タイ人を呼び込みタイぜよ!」として、タイからの観光客のインバウンド効果による高知県の地域活性化案を発表しました。練習時間が半日しかなく、十分な練習ができず臨みましたが、上位から3番目の賞に入賞することができました。